支那物産綜覽

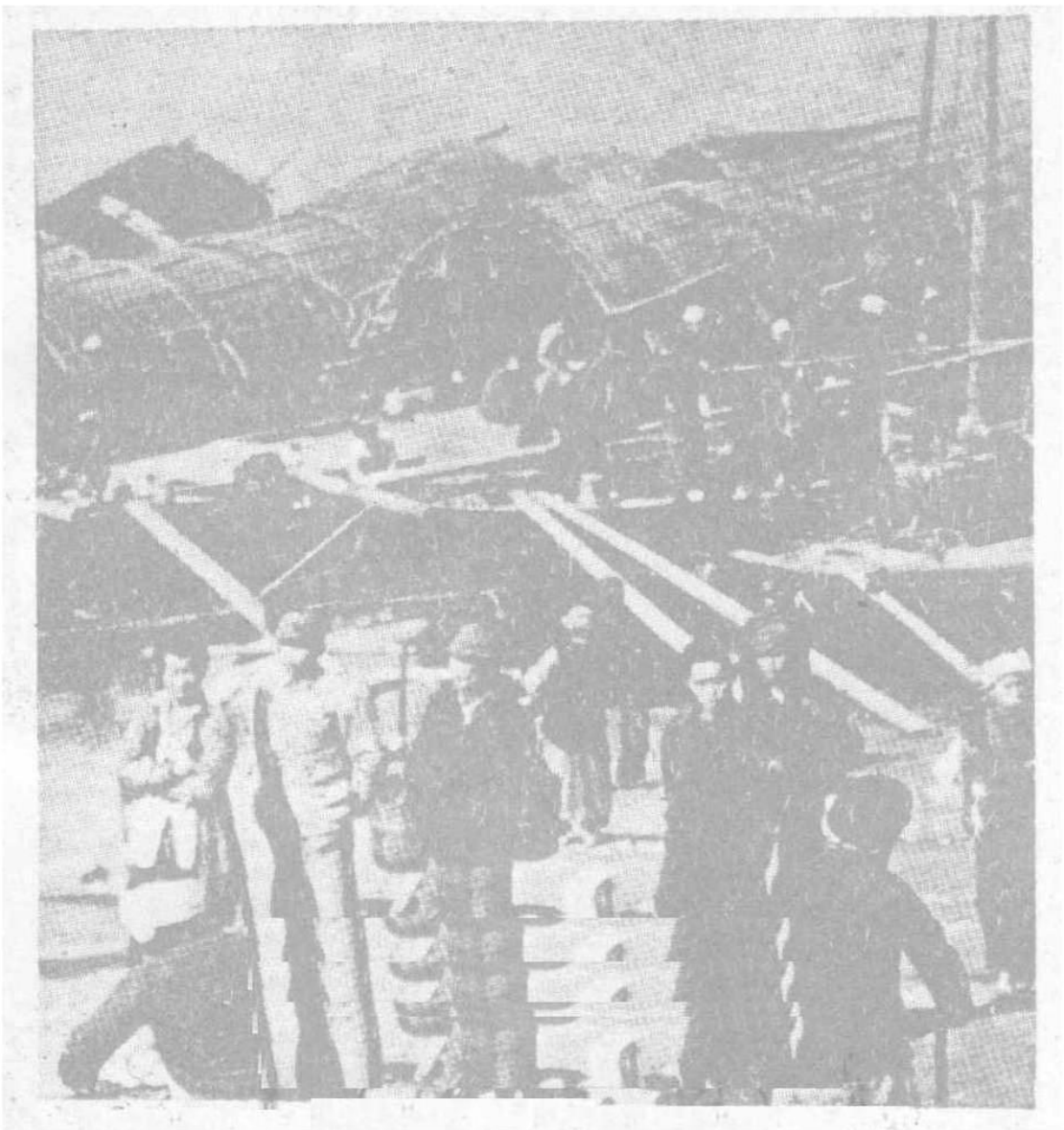
支那物產綜覽

——實地調查・統計的研究——

著者

農學博士　山崎百治

宇都宮高等農林學校教授，在上海・東亞同文書院前教授



株式會社

栗田書店

日本文化協會會員番號 108502

昭和十七年三月十五日印刷
昭和十七年三月二十日發行

支那物產綜覽
定價拾參圓

著者　山崎百治
發行者　永田周作
東京市神田區神保町一ノ三九
印刷所　單式印刷株式會社
東京市芝區芝浦一ノ二三

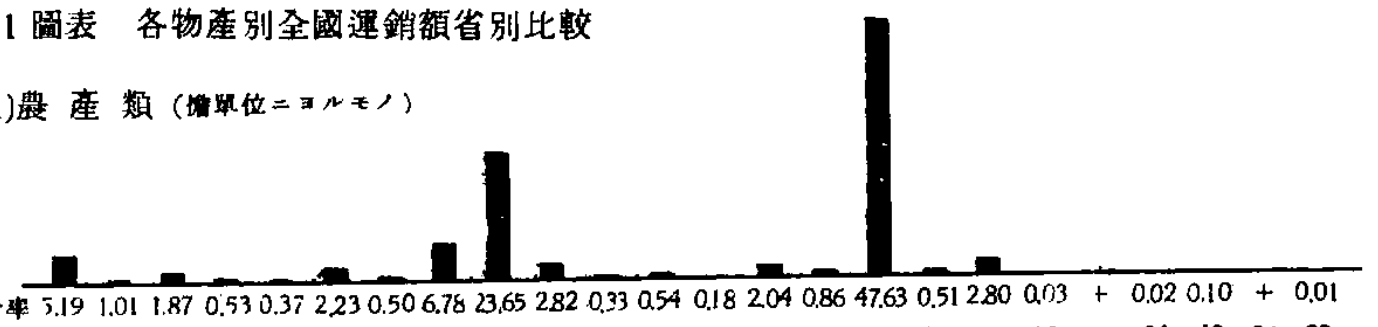
發行所　株式會社 栗田書店
東京市神田區神保町一ノ三九
電話神田二一六一(3)
振替東京一一二三四番

配給元　日本出版配給株式會社

日本標準規格　B列5號

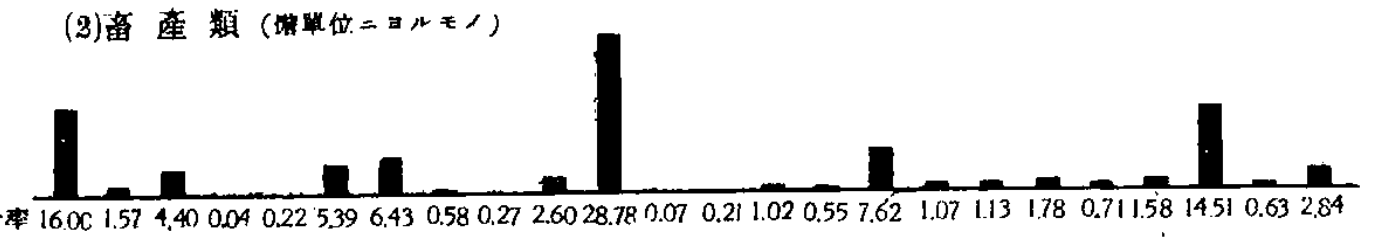
第1圖表　各物產別全國運銷額省別比較

(1)農 產 類（擔單位ニヨルモノ）



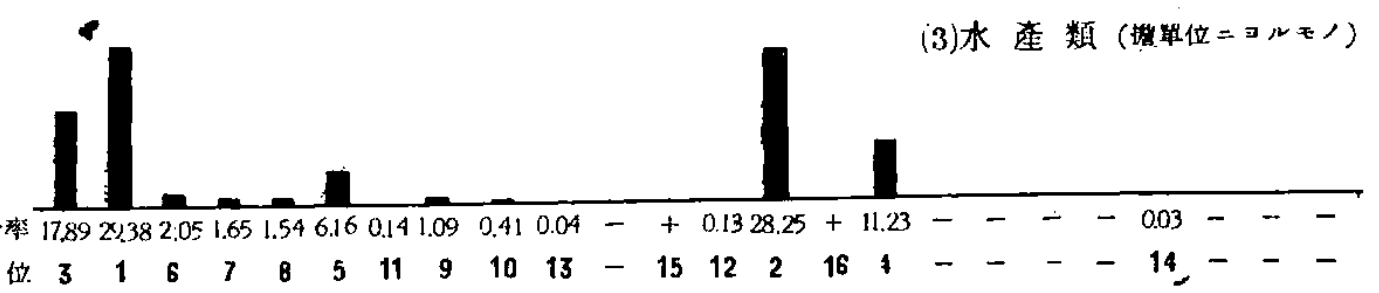
百分率	5.19	1.01	1.87	0.53	0.37	2.23	0.50	6.78	23.65	2.82	0.33	0.54	0.18	2.04	0.86	47.63	0.51	2.80	0.03	+	0.02	0.10	+	0.01
順位	4	10	9	13	16	7	15	3	2	5	17	12	18	8	11	1	14	6	20	23	21	19	24	22

(2)畜 產 類（擔單位ニヨルモノ）



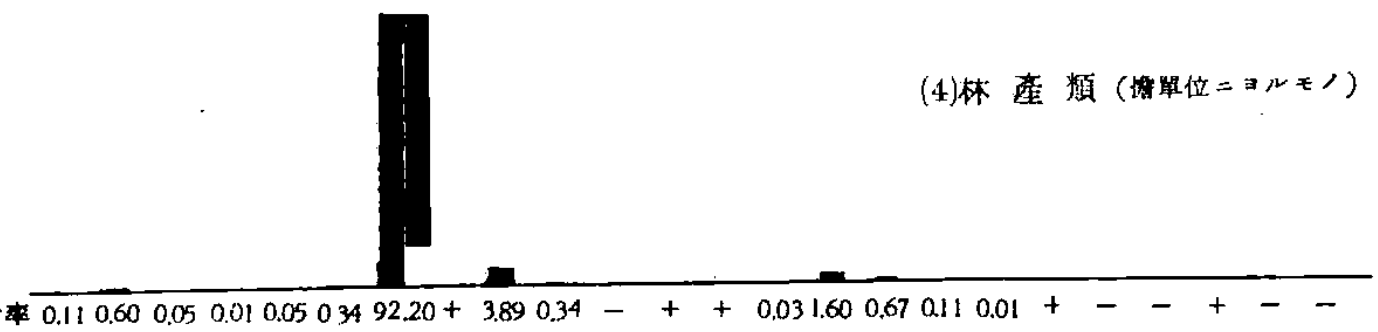
百分率	16.00	1.57	4.40	0.04	0.22	5.39	6.43	0.58	0.27	2.60	28.78	0.07	0.21	1.02	0.55	7.62	1.07	1.13	1.78	0.71	1.58	14.51	0.63	2.84
順位	2	12	7	21	24	6	5	18	20	9	1	23	22	15	19	4	14	13	10	16	11	3	17	8

(3)水 產 類（擔單位ニヨルモノ）



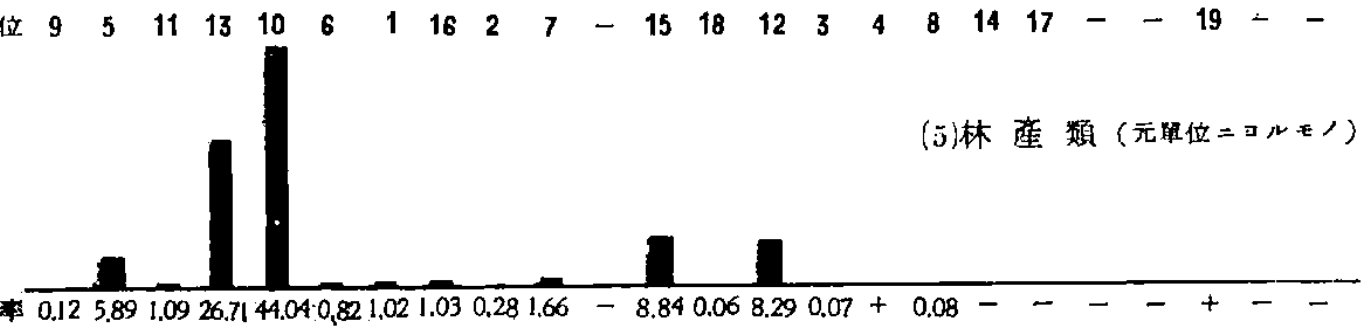
百分率	17.89	29.38	2.05	1.65	1.54	6.16	0.14	1.09	0.41	0.04	—	+	0.13	28.25	+	11.23	—	—	—	—	0.03	—	—	—
順位	3	1	6	7	8	5	11	9	10	13	—	15	12	2	16	4	—	—	—	—	14	—	—	—

(4)林 產 類（擔單位ニヨルモノ）



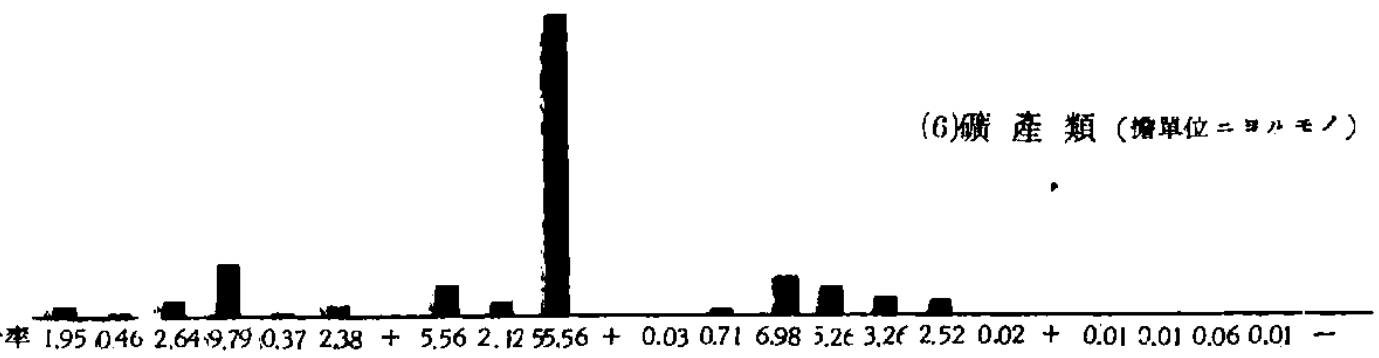
百分率	0.11	0.60	0.05	0.01	0.05	0.34	92.20	+	3.89	0.34	—	+	+	0.03	1.60	0.67	0.11	0.01	+	—	—	+	—	—
順位	9	5	11	13	10	6	1	16	2	7	—	15	18	12	3	4	8	14	17	—	—	19	—	—

(5)林 產 類（元單位ニヨルモノ）



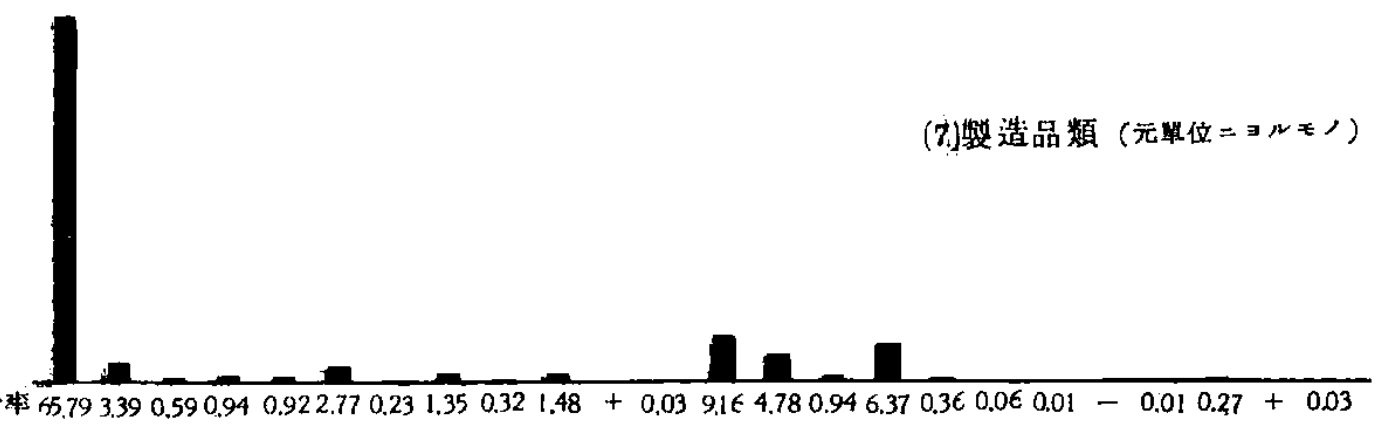
百分率	0.12	5.89	1.09	26.71	44.04	0.82	1.02	1.03	0.28	1.66	—	8.84	0.06	8.29	0.07	+	0.08	—	—	—	—	+	—	—
順位	12	5	7	2	1	10	9	8	11	6	—	3	15	4	14	16	13	—	—	—	—	17	—	—

(6)礦 產 類（擔單位ニヨルモノ）



百分率	1.95	0.46	2.64	9.79	0.37	2.38	+	5.56	2.12	55.56	+	0.03	0.71	6.98	5.26	3.26	2.52	0.02	+	0.01	0.01	0.06	0.01	—
順位	11	13	7	2	14	10	21	4	9	1	23	16	12	3	5	6	8	17	22	19	18	15	20	—

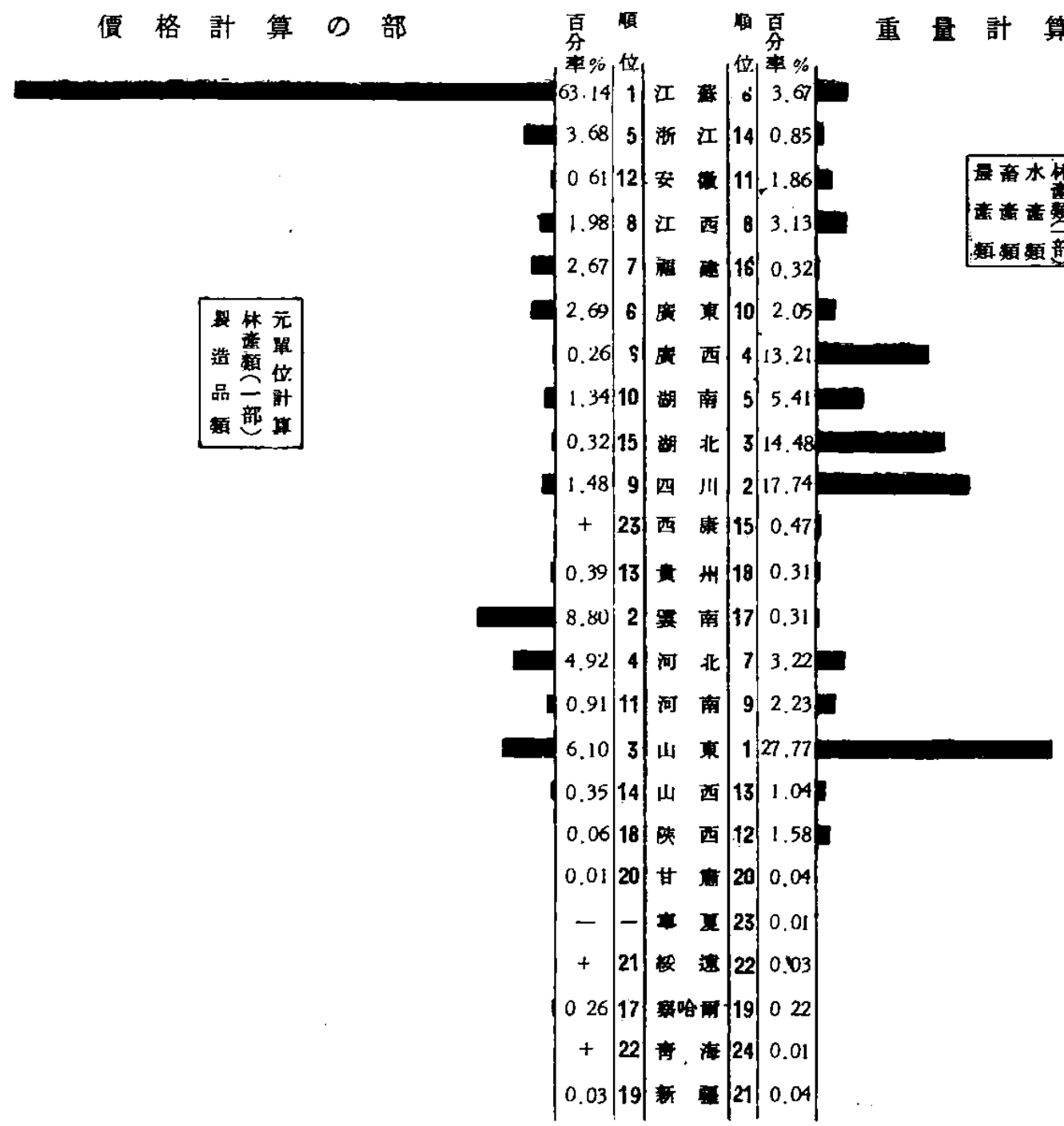
(7)製造品類（元單位ニヨルモノ）



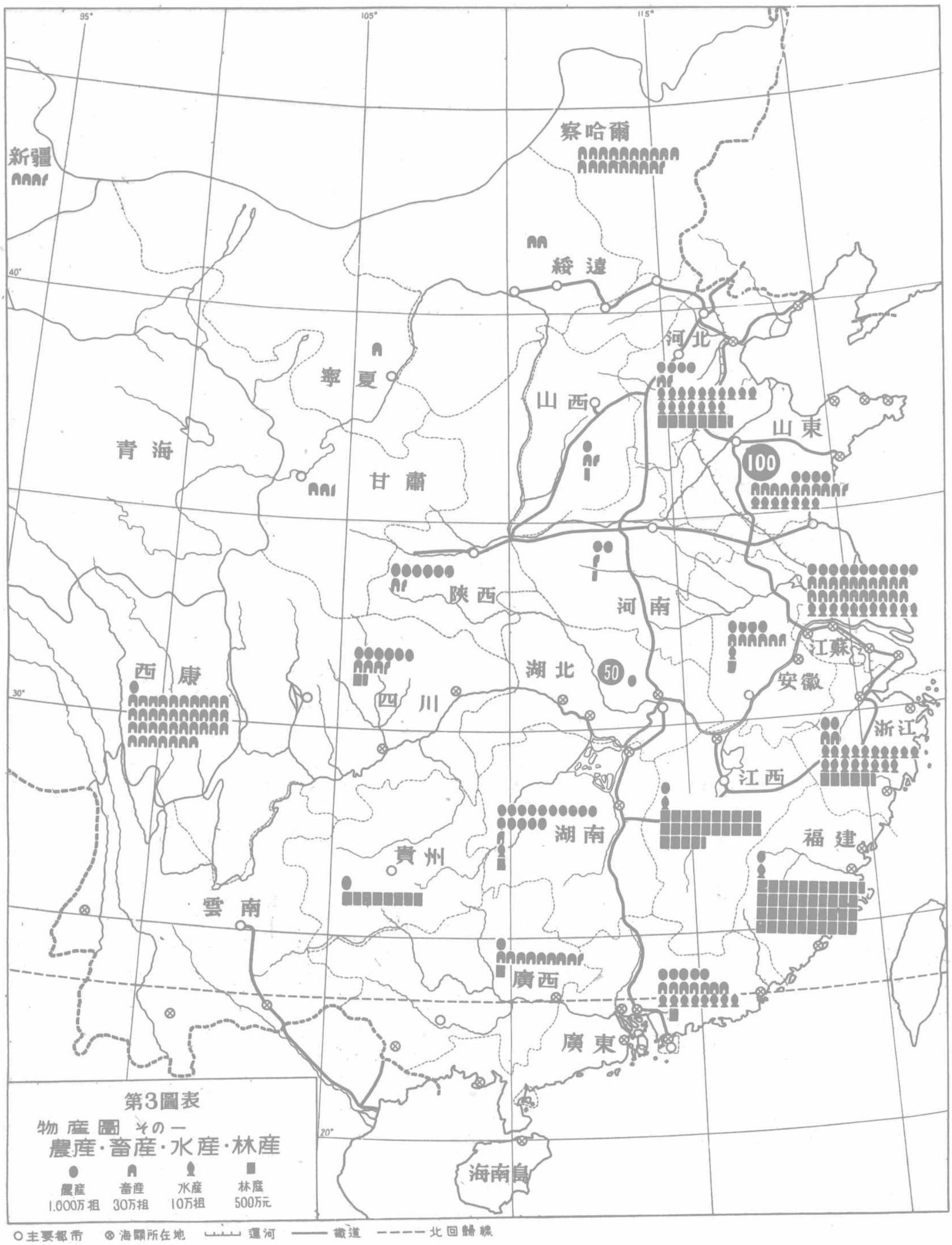
百分率	65.79	3.39	0.59	0.94	0.92	2.77	0.23	1.35	0.32	1.48	+	0.03	9.16	4.78	0.94	6.37	0.36	0.06	0.01	—	0.01	0.27	+	0.03
順位		5	12	10	11	6	16	8	14	7	23	18	2	4	9	3	13	17	20	—	21	15	22	19
	江蘇	浙江	安徽	江西	福建	廣東	廣西	湖南	湖北	四川	西康	貴州	雲南	河北	河南	山東	山西	陝西	甘肅	寧夏	綏遠	察哈爾	青海	新疆

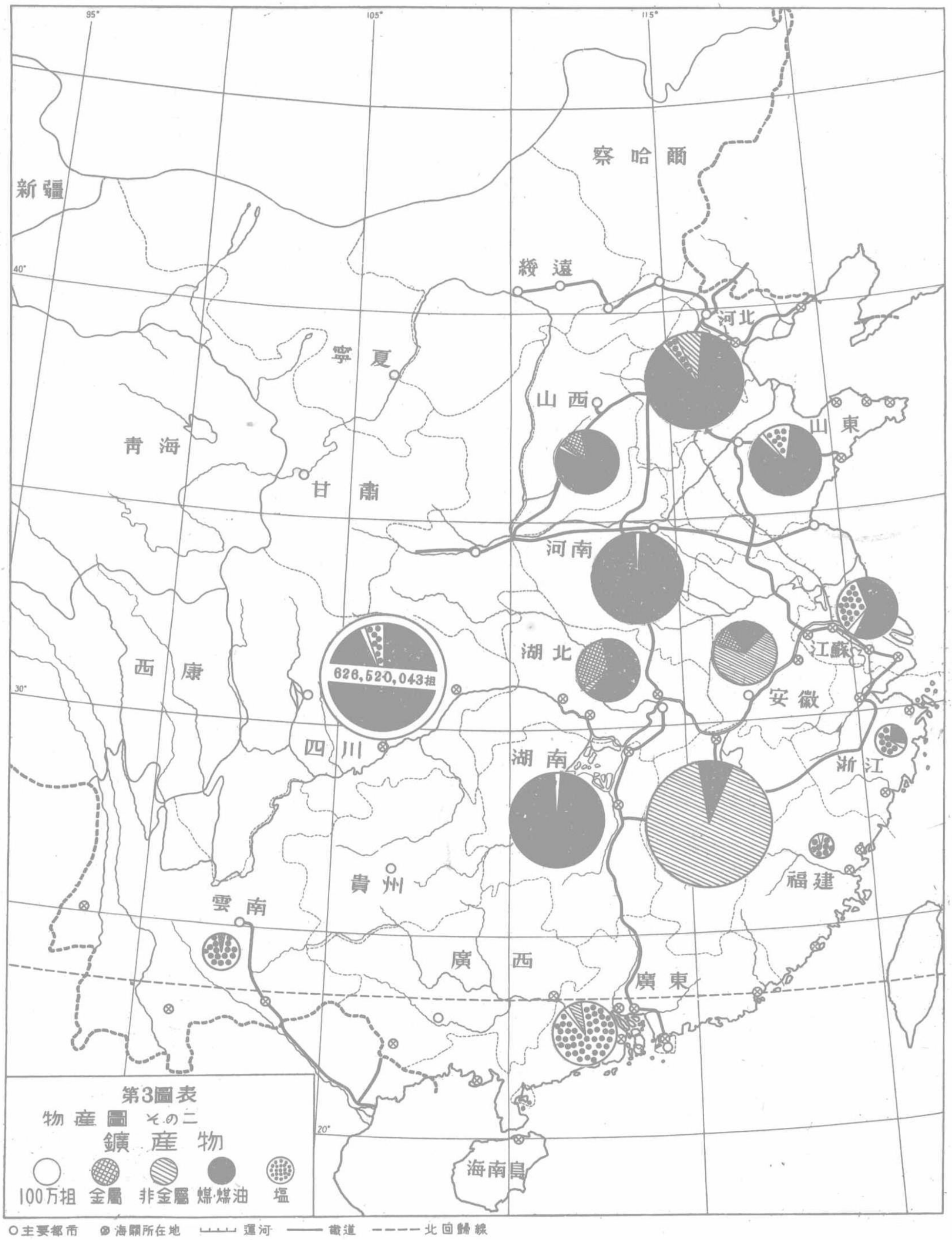
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

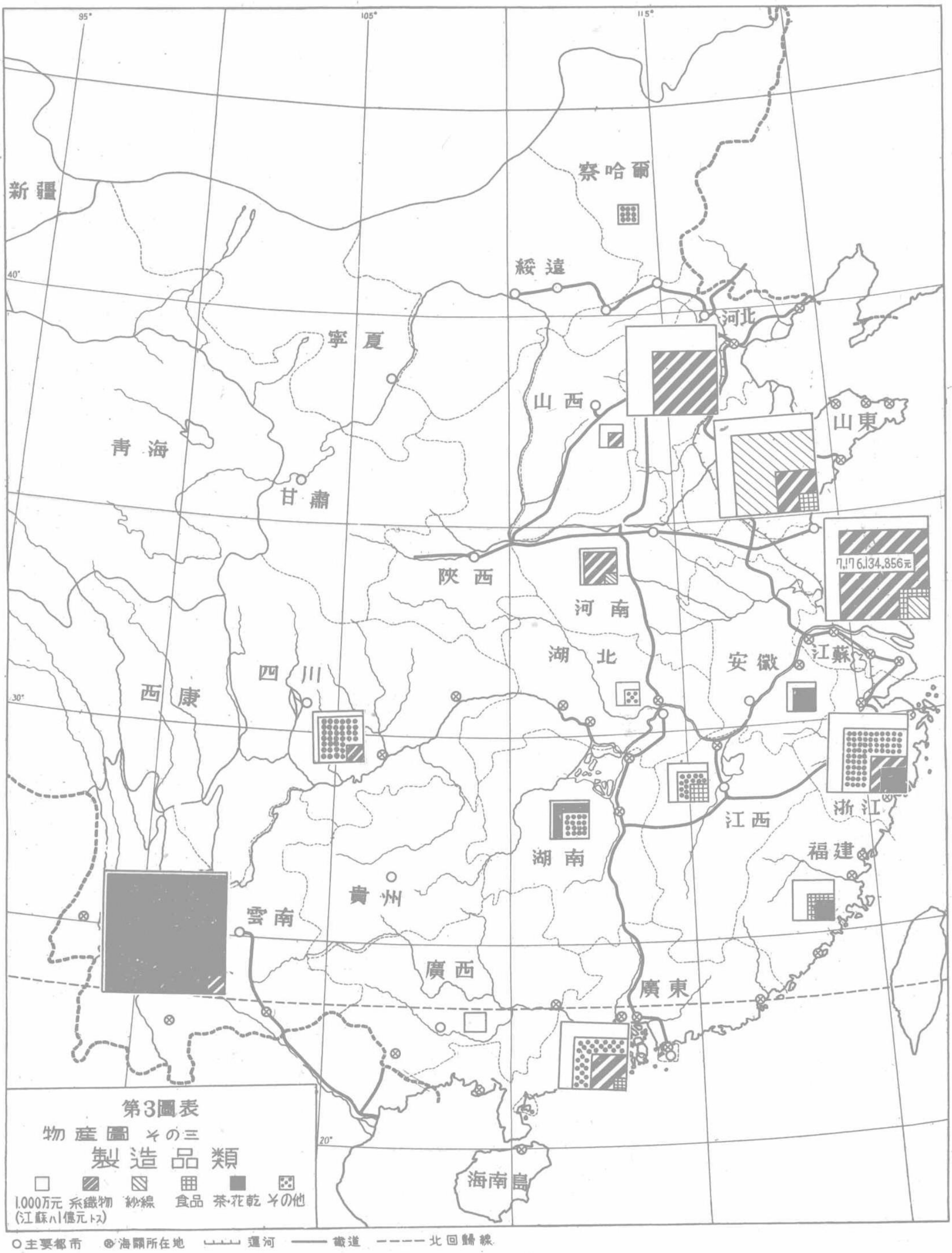
第2圖表　全物產運銷總額各省比較

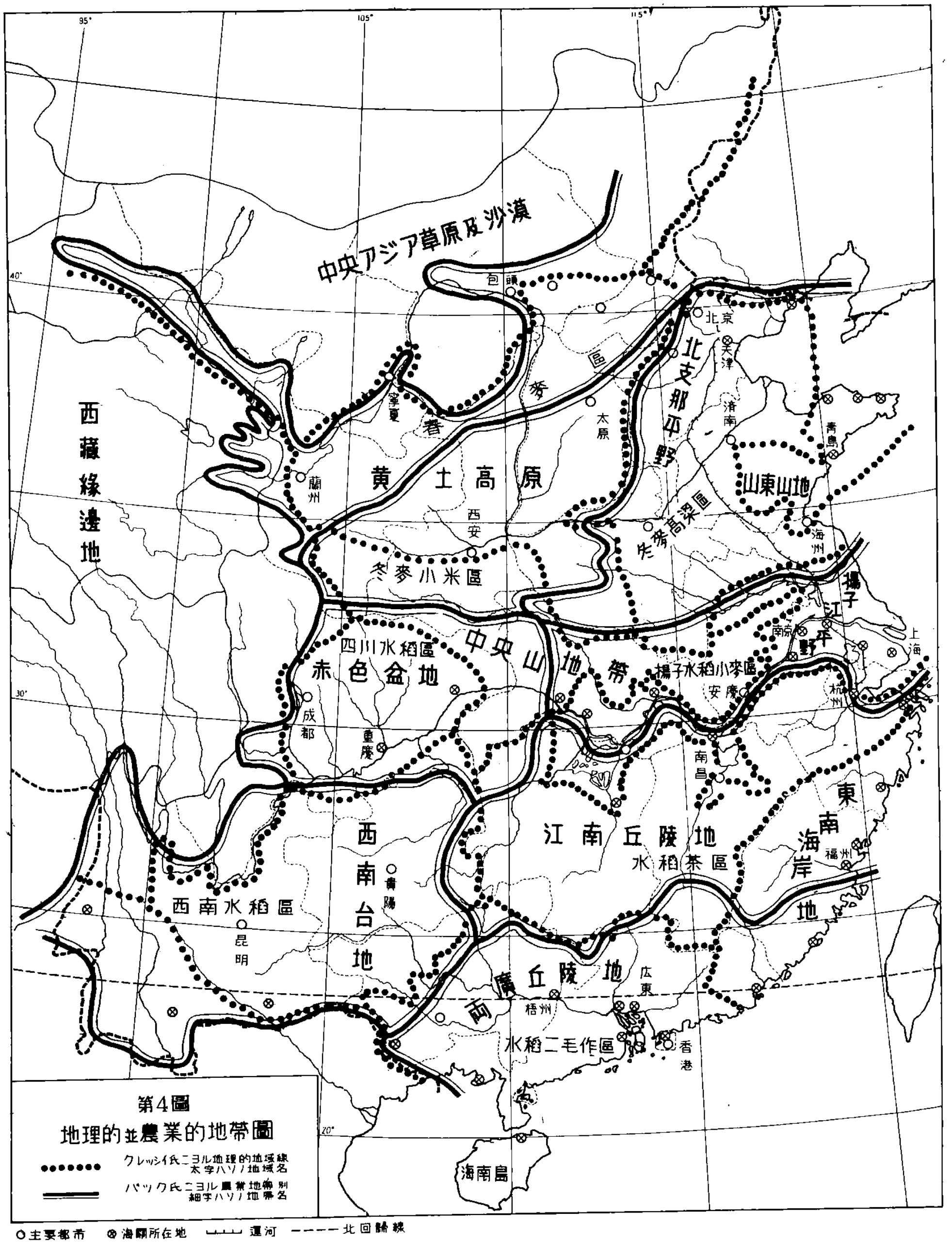


百分率%	順位		順位	百分率%
63.14	1	江蘇	6	3.67
3.68	5	浙江	14	0.85
0.61	12	安徽	11	1.86
1.98	8	江西	8	3.13
2.67	7	福建	16	0.32
2.69	6	廣東	10	2.05
0.26	9	廣西	4	13.21
1.34	10	湖南	5	5.41
0.32	15	湖北	3	14.48
1.48	9	四川	2	17.74
+	23	西康	15	0.47
0.39	13	貴州	18	0.31
8.80	2	雲南	17	0.31
4.92	4	河北	7	3.22
0.91	11	河南	9	2.23
6.10	3	山東	1	27.77
0.35	14	山西	13	1.04
0.06	18	陝西	12	1.58
0.01	20	甘肅	20	0.04
—	—	寧夏	23	0.01
+	21	綏遠	22	0.03
0.26	17	察哈爾	19	0.22
+	22	青海	24	0.01
0.03	19	新疆	21	0.04


95°
105°
115°
40°
30°
20°
新疆
察哈爾
綏遠
寧夏
河北
山西
山東
青海
甘肅
100
陝西
河南
江蘇
安徽
西康
湖北
50
四川
浙江
江西
湖南
福建
貴州
雲南
廣西
廣東
海南島
第3圖表
物産圖 その一
農産・畜産・水産・林産
農産 1,000万担
畜産 30万担
水産 10万担
林産 500万元
○主要都市
⊗海關所在地
運河
鐵道
北回歸線


95°
105°
115°
40°
30°
20°
察哈爾
新疆
綏遠
河北
寧夏
山西
山東
青海
甘肅
河南
江蘇
湖北
西康
626,520,043担
安徽
四川
湖南
浙江
貴州
福建
雲南
廣西
廣東
海南島
第3圖表
物産圖 その二
鑛産物
100万担
金屬
非金屬
煤·煤油
塩
○主要都市
⊗海關所在地
運河
鐵道
北回歸線


95°
105°
115°
40°
30°
20°
新疆
察哈爾
綏遠
河北
寧夏
山西
山東
青海
甘肅
陝西
河南
7,176,134,856元
湖北
安徽
江蘇
四川
西康
浙江
江西
湖南
福建
貴州
雲南
廣西
廣東
海南島
第3圖表
物産圖 その三
製造品類
1,000万元 (江蘇ハ1億元トス)
糸織物
紗線
食品
茶・花乾
その他
○主要都市
⊗海關所在地
運河
鐵道
北回歸線


95°
105°
115°
40°
30°
20°
中央アジア草原及沙漠
包頭
北京
天津
寧夏
晉
太原
北支那平野
濟南
青島
西藏緣邊地
蘭州
黃土高原
西安
山東山地
海州
冬麥小米區
揚子江平野
南京
上海
四川水稻區
赤色盆地
中央山地帶
揚子水稻小麥區
安慶
杭州
成都
重慶
南昌
東南海岸地
江南丘陵地
水稻茶區
福州
西南台地
貴陽
西南水稻區
昆明
兩廣丘陵地
廣東
梧州
水稻二毛作區
香港
海南島
第4圖
地理的並農業的地帶圖
クレッシイ氏ニヨル地理的地域線 太字ハソノ地域名
パック氏ニヨル農業地帶別 細字ハソノ地帶名
○主要都市 ⊗海關所在地 運河 北回歸線

まへがき

1. 物　　産

1. 物

(1)「物，萬物也，牛爲大物，天地之數，起於牽牛，故從牛勿聲」（『說文』）。

(2)「凡生天地之間，皆謂物也」（『玉篇』）。

(3)「品物流行」（『周易』「乾卦」）。

(4)「先王以茂對時育萬物」（〃「无妄」）。

(5)「九貢九曰物貢」（『周禮』「天官大宰」）。註，物貢雜物魚鹽橘柚。

(6)「以鄉三物敎萬物而賓興之」（〃　地官大司徒）。

(7)「掌共雞牲辨其物」（〃　春官雞人）。註，謂毛色也。

(8)「比物四驪」（『詩經』小雅）。傳，物毛物也。

(9)凡生天地間者，皆謂之物，通常分動物植物礦物三類，皆謂之天然物，其以人功製成者，則謂之人造物（『辭源』）。

(10)「もの（名）物（百名(モモナ)の略轉と云）凡ソ，形アリテ世ニ成リ立チ，五官ニ觸レテ其存在(アル)ヲ知ラルベキヲ稱スル語」（『言海』）。

要するに，「物とは天地間に存在する，あらゆる物卽ち萬物を云ふ」と解して好からう。

2. 物　　產

(1)「江湖險陂，物產殷充」（左思吳都賦）。

(2)「諸郡土俗物產記十九卷」（『唐書』藝文志）。

(3)「本土所產之物類」（『辭源』）。

(4)「さんぶつ（名）產物其土地ヨリ產スル天然並ニ人造ノ物」（『言海』）。

要するに，「萬物に人間の手のかゝつたものを，物產・產物・方物と云ふ」としてよくはあるまいか，山の立木・野の作物・川の魚等は其のまゝで存在する限り「物」ではあるが，「物產」ではない。木は切られ・作物は收穫され・魚は漁されて，人間生活に關係を持つ樣になれば，「物產」となるのである。だから「物の中で，人力の加はつたものが物產である」と云ふことにもなる。

2. 支那石器時代の物產

1. 北京の西南約40粁に在る，周口店の石灰洞で發見された北京人類は，世界的に有名であるが，彼等と支那民族との關係はまだ判明しない。然し，北京人類が石器を製作使用し，獸類を狩し，魚類を漁し，火食したことは事實らしい。そうして，彼等は食物として植物も攝つたであらうと思はれる。果して然らば，後記する如き，支那物產の六大別，卽ち農產類・畜產類・水產類・林產類・礦產類・製造品類に屬する低級品目があつたと思はれる。
2. 北支・滿蒙地方の舊石器時代遺跡からは，石器・骨器・住居址・工作場等が發見されてゐる。して見れば，該時代人は北京人類よりも，一段と進んだ物產を持つて居たであらう。
3. 大體，黃河の流域を占める新石器時代の遺跡からは，貝塚・住居址・諸種の磨製石器・精巧な骨器・玉・石の紡錘車・彩文土器・黝黑色土器等が澤山に發見されてゐる。石器よりも土器が多く，其中には支那民族特有の鬲型土器や豆などがある。是等によつて，當時の物產が品目も多くなり，品質も向上したことが知られやう。

3. 古記錄の物產

1. 龜甲獸骨文字

(1)河南省彰德府安陽縣城の西北5里餘の地方は古來殷墟として有名である。西紀1900年，該地の農夫が耕作中に，無數の龜甲・獸骨を發堀して以來，學者・學界の注目を引き，度々大規模な發堀調査が行はれ，多大の業績を擧げた。其遺物は骨器・貝器・石器・土器・銅器等驚くべき多種多樣に及んで居る。特に顯著なことは，龜甲・獸骨に刻みつけられた原始的文字で，是は殷代王室が行つた占卜の記錄であつた。

(2)甲骨文字が諸家の研究によつて讀みとられた結果，次の物產の存在が明らかとなつた。

農產類	禾・黍・粟・來・麥。
畜產類	羊・馬・豕・鹿・狼・兎　象。
水產類	魚・介。
林產類	土木として，宮・室・宅・家等があり，舟・車等も造られて居るから，林產物の存在が確かである。
礦產類	爵・卣・尊・彝・鼎等約20種の靑銅器・多種多樣な土器・石器が造られてゐるから，礦產物の存在は確かである。
製造品類	靑銅器・骨器・石器・土器・舟・車・絲・帛・衣・巾・幕・鬯・酒・弓・

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

矢・彈・戈・鉞等々。

是等物產の中,不朽な物は現實の發堀物によつて立証されて居る。

(3)要するに，殷代の物產は著しく其種類を增し，大に品質が向上したことが認められる。

猶，殷代は金石併用時代と見做されてゐる。

2. 『書經』の「禹貢」

(1)「禹貢」は「夏書」に屬し，夏代の史實を記したものと云はれて居るが，後世儒家の假託とする說が至當と思はれる。物產關係の古記錄として引用して見ることにした。

(2)禹貢の物產

冀州……厥土，惟白壤，厥賦，惟上上錯，厥田，惟中中．恒衞既從，大陸既作，島夷皮服。

兗州……桑土既蚕，是降丘宅土，厥土黑墳，厥草惟繇，厥木惟條，厥田惟中下．厥賦貞……厥貢漆絲，厥篚織文。

青州…… 厥土白墳，海濱廣斥，厥田惟上下，厥賦中上，厥貢鹽絺，海物惟錯，岱畎絲枲，鈆松怪石，萊夷作牧，厥篚檿絲。

徐州……蒙羽其藝，大野既豬，東原底平，厥土赤埴墳，草木漸包，厥田惟上中，厥賦中中，厥貢．惟土五色，羽畎夏翟，嶧陽孤桐，泗濱浮磬，淮夷蠙珠，暨魚，厥篚玄纁縞。

楊州，陽鳥攸居……篠簜既敷，厥草惟夭，厥木惟喬，厥土，惟塗泥，厥田，惟下下，厥賦下上，上錯，厥貢惟金三品．瑤琨篠簜．齒革羽毛，惟木，島夷卉服，厥篚，織貝，厥包，橘柚，錫貢。

荆州……雲土，作乂，厥上，惟塗泥，厥田，惟下中．厥賦，上下，厥貢，羽毛齒革，惟金三品，杶幹栝柏，礪砥砮丹，惟箘簬楛，三邦底貢厥名，包，匭，菁茅，厥篚玄纁璣組，九江納錫大龜。

豫州……厥土， 惟壤，下土，墳壚，厥田，惟中上，厥賦，錯上中，厥貢，漆枲絺紵，厥篚，織纊，錫貢磬錯。

梁州……岷嶓既藝，……和夷底績，厥土，青黎，厥田惟下土，厥賦，下中三錯，厥貢，璆鐵銀鏤，砮磬，熊羆狐貍，織皮。

雍州……厥土，惟黃壤，厥田，惟上上，厥賦中下，厥貢．惟球琳琅玕，……織皮。

(3)摘要

(1)土性・地勢を明らかにしたこと。

(2)夫れと物產が關係あること，卽ち，物產＝方物を明らかにしたこと。

(3)農耕を重視したこと。

(4)金屬の生產を明らかにしたこと。

要するに，六大別物產の內容が豐富になつたことが看取されやう。

『書經』の「洪範」に「八政，一曰，食，二曰，貨」とあつて，「食・貨」が特に強調せられてゐることを指摘したい。

3. 『周禮』・『禮記』にも多くの物產が散見するが，「食・衣」に關係の深い農產類・畜產類が重視された樣に見受けられる。

4. 『爾雅』・『小爾雅』・『方言』・『釋名』等の諸書は，物產の注釋書とも看做されるもので，多種多樣の物產が豐富に記載されてある。

4. 「支那二十五史」・「一統志」の物產

1. 二十五史は次ぎの如くである。

書名	總卷數	書名	總卷數	書名	總卷數
史記	130	漢書	100	後漢書	120
三國志	65	晉書	130	宋書	100
南齊書	59	梁書	56	陳書	36
魏書	114	北齊書	50	周書	50
隋書	85	南史	80	北史	100
舊唐書	200	新唐書	225	五代史	150
新五代史	74	宋史	496	遼史	116
金史	135	元史	210	新元史	257
明史	332				

2. 是等の卷中には，到る處に物產が散見してゐる。就中，「貨殖」・「貨殖傳」・「食貨」・「地理」・「外夷傳」・「外國傳」等に多く，經濟政策を論じたものもある。

3. 物產は方物とも云はるる如く，地方色を帶ぶるものが多い。交通・通信が不便で，紛亂常なく，加ふるに貪官汚吏の多い支那に於て，地方の實情が如何の程度まで，中央に知られたか？に就ては多大の疑問がある。堂々と數字を擧げて論策してゐるものもあるが，筆者は其數字を信用する氣になれない。

4. 『大明一統志』・『大淸一統志』には，名所・舊蹟と共に有名な物產卽ち名物が記載されてゐる。然し，個數は少く，數量には全然觸れて居ない。

5. 『通志』・『府志』・『縣志』の物産

1，各省には夫れ夫れ通志があつた。1例として，『畿輔通志』（清朝畿內）の目次を示せば次ぎの如くである。

京師	星野	建置沿革	形勝	疆域	山川	城池	公署	學校
戶口	田賦	倉廒	鹽政	兵制	關津	驛站	河渠	水利
營田	陵墓	祠祀	寺觀	古蹟	風俗	物產	封爵	職官

選擧　名官　人物（先哲・名臣・政事・忠節・儒學・文翰・卓行・高逸・藝術流寓・仙釋・烈女）藝文。

是は他の各省に於ても，大同小異である。

2，通志は各省の實情に卽して編輯されたものであるから，比較的信用がをける。「物產」・「風俗」の項を見れば，其省の物產に就いて知ることが出來る。書き振りが「お國自慢」的で，且つ數量が擧げてないから，「何省の某所に某と云ふ物產がある」と云ふ丈けに止まる。

3，府志・縣志は通志の規模を小さくした樣なものである。疆域が狹い丈けに實情に近く，通志よりも信用して好いであらう。然し，府志・縣志の「物產」・「風俗」にしても，通志に於けると同樣な缺陷がある。

6. 『農商公報』・『農商統計』

1，中華民國になつて以來，其7～8年頃までは，北京に中央政府があつて，曲りなりにも，政治を行つてゐた。其「農商部」は月刊雜誌『農商公報』を發行して，農商事情の報道，紹介をなし，亦年1回『農商統計』を刊行した。

2，農商公報は全部通覽して，得る處少くなかつたが，其編輯振りは可なり粗雜で，無責任に感ぜられた。例へば，「譯載」欄に筆者の論文が「紹興酒微生物之研究」として載せてあつたが，原著者・原報に全然觸れてゐなかつたから，一般讀者は何處の誰が何處で研究したのか？判らないことになる。農商部附屬の農事試驗場から報告書を貰つたことがあつた，該場勤務の日本人技師曰く「是は机上で造られたもので，實驗報告ではないから，其つもりで讀まれない」と。農商公報が信用されないのも當然であらう。

3，當時は地方軍閥割據の時代で，北京政府の政令は北支數省に及ぶに過ぎなかつた。從つて，統計作成の爲めに資料の蒐集を企圖しても，夫れが充分に行はれる筈がなく，結局机上で胡麻化した統計が出現するより外はない。筆者は『農商統計』に就て，釀造戶數を調べたが，1年間に50萬戶以上の變動のあることを知つた。林植夫氏（帝大林學士）

は「該統計は1個の東西（品物）で，資料ではない」と痛罵したが同感だ。

4. 物產を取扱ふ本家本元の農商部出版物が此有樣であるから，他は推して知るべきであらう。

7.『中國通郵地方物產誌』

1. 該書の內容

(1)編輯者　交通部郵政總局。

(2)發行所　商務印書館（上海）

(3)初　版　中華民國26年3月（昭和12年・西紀1937年）。

(4)頁　數

江蘇	90	浙江	50	安徽	37	江西	37	福建	71
廣東	95	廣西	28	湖南	40	湖北	47	四川	83
西康	9	貴州	27	雲南	34	河北	10	河南	67
山東	94	山西	75	陝西	37	甘肅	25	寧夏	10
綏遠	17	察哈爾	17	青海	10	新疆	15	合計1125。	

外に，物產分類索引54。地名索引18。附錄7。附圖6。

(5)各省編の內容

(1)概說。

(2)物產調查　地名・種別・物產名稱・單位價目・出產時季・全年運銷量・銷行地帶・備考。

(3)工商行號調查　地名・類別・行號・業務・地址。

支那の行政機關の中で，最も信用あるのは郵政總局と稅關で，其處の出版物は支那政府の出版物中で，最も高く評價されてゐる。該書が郵政總局の編輯であることは，先づ好感を持たるゝ點であらう。

2. 序文・例言等によれば，

(1)物產類別　農產類・畜產類・水產類・林產類・礦產類・製造品類。

(2)物產名稱　2,300餘種。

(3)調查箇處　2,700餘。

(4)工商行號數　85,000餘家。

(5)調查工作　約2ヶ年。

とある。郵政總局の關係機關・人員を總動員し，2ヶ年に亘る實地調查の報告書と云ふべきであらう。

3. 斯くの如きは，支那として全く空前の事業で，筆者が特に興味を有する點である。該書

には種々の缺點もあるが，日支關係緊密化の折柄，何人にも一覽を御奬めしたい。特に，支那事變前の出版であることを注意したい。該書に就いて最大の缺點は「書き放しで，纒りがついてゐない」と云ふことである。從つて，支那の物產を全國的又は省別的に，或は又類別的に，大觀することが出來ない。筆者は其點を遺憾とし，「該書に纒りをつけると同時に支那物產を廣く紹介したい」と云ふ見地から本書を書いた。本書と該書が一本に纒まれば，最も好ましいことに思つてゐる。

8. むすび

1. 筆者の東亞同文書院在職中（大正3～昭和2）に，種々の名士が來て講演された。

(1)某大學教授T博士は，「地大物博の支那・無盡藏の寶庫支那」などと強調された。筆者は，「支那は土地が廣く人口も多いから，物資の絕對量の多いことは當然である。然し問題は人口1人當りの相對量にあると思ふ。米國に5億萬以上の人口があつたら如何うだらう。支那は物資が豐富でない，未開發の地下資源など玆に問題とならないと思ふが如何？」と質問したが，滿足な答が得られなかつた。

(2)某新聞主筆W氏は，「日支兩民族の食物を比較し，支那食物の多種多量なること，食物資源の豐富なること」を力說した。筆者は，「何を根據に支那に食物が豐富だと主張さるゝか？」と問ふたら，「あの支那料理を見給へ，一目瞭然だ」と答へられた。日本人が經驗して居る樣な「支那料理」を四億萬人の何%が食べて居るのか？說明するまでもあるまい。

2. 支那民族は古來「地大物博」を云ふが，中華思想の現れとしか思はれない。治者階級・知識階級の所謂讀書人の身廻りには多種多量の物產があつたから，「地大物博」と書くことは間違でなからう，是を一般民衆について見る時，「地大」ではあるが「物博」ではないと信ずる。我々は「漢字の魅力」にうかうか乘つてはならない。

3. 『中國通郵地方物產誌』は，其調査區域が「通郵地方」に限られた丈けに支那全國的のものでなく，相當の調査漏れが豫期されて好い。從つて，該書から纒めた運銷額などは，實際よりも少ないことになる。夫れを考慮に入れても，「物博」とはならない樣だ。兎に角，支那空前の『中國通郵地方物產誌』が出來たことであるから，是れを基礎として，『中國物產誌』が出來ることを衷心から切望するもので，此の爲めに日本・日本人は全幅的援助をなすべきであらう。

4. 筆者は，本書を編むに當つて，次ぎに重點を置いた。

(1)原著の地名・物產名稱・全年運銷量又は單位價目を誤りなく分類・轉載すること。

(2)類別・省別毎に全年運銷額又は價額を算出し，各の百分率・順位を定むること。

(3)是に關する考察を簡單にし，讀者が表・圖表より直接大要を會得する樣にすること。

要するに，表の作成に最も努力したことを認められたい。

5. 摘要・考察の結果，原著に種々の缺陷のあることを明かにしたが，是は支那空前の大事業でもあつたから，止むを得ないことゝ信ずる。夫れにも拘らず，原著の重要性は既に述べた如くで，御諒解のことゝ思ふ。讀者諸君に，

(1)何省何縣何村に，某物產が，略幾何位出廻はるか？

(2)其物產は其省で如何の位に達するか？

(3)其物產の各省間に於ける關係は如何うか？　亦，全國的地位は如何うか？

(4)其物產の將來性は如何うか？

を會得して頂ければ幸ひに思ふ。

6. 最後に，辯解の樣なことを附記して，讀者の御諒解を乞い度い。

(1)古代に物產の注釋書があつた位で，名稱の混亂が甚だしい。

(2)同物異名・異物同名が少くない。

(3)土語を文字に表はしたものがある。

(4)調査員が勝手に又は便宜に附けた名稱もあらう。

(5)音が似て居れば，自由に當字を使つてゐる。

(6)「砂糖」「糖砂」と呼ぶ如き例が少くない。

(7)「蜡」は「蜡祭」と呼ぶ「臘月祭」である。其「臘」を「蠟」に通はせ，「蠟」・「蠟蟲」を「蜡」・「蜡蟲」と稱する如き，凝つたものもある。

是等は支那の實情であるから，原著の儘を忠實に本書に轉載したもので，決して誤りではない。

要するに，支那物產を正確に分類することは，實地調査によらなければ，出來ないことだ。然し，「明らかに間違である」と信ぜられるものがあれば，指摘せられんことを願ふ。亦，同一物產を其性質上から，殊更らに2分類に編入したものもあるが，其爲めに，百分率・順位等に著しい影響は無いものと信ずる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com